

# 参 考 资 料

## 「ふくい2030年の姿」検討会 検討経過等

### ○検討経過

- 2007年度 月2回程度の検討会  
(有識者との意見交換およびコンセプトづくり)
- 2008年度 週1回程度の検討会  
(報告書への記載内容の分析および検討)

計50回程度

### ○意見交換

(五十音順：役職名等は意見交換時のもの)

(有識者)

- ・ 栃尾敏氏（東京新聞編集局科学部編集委員）との意見交換
- ・ 原邦彦氏（株式会社コンポン研究所取締役副所長）との意見交換
- ・ 吉川昌孝氏（博報堂生活総合研究所上席研究員）との意見交換

(大学の教授等)

- ・ 東京大学社会科学研究所（希望学プロジェクト）との意見交換  
橘川武郎教授（一橋大学大学院商学研究科）、玄田有史教授、小森田秋夫教授、廣渡清吾教授、五百旗頭薫准教授、宇野重規准教授、トーマス ブラックウッド准教授、中林真幸准教授、中村尚史准教授、佐藤慶一助教、大堀研特任研究員、石川耕三学術支援専門職員、佐藤由紀リサーチ・アシスタント
- ・ 東京大学総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門との意見交換  
秋山弘子教授、岩本康志教授、甲斐一郎教授、鎌田実教授、武川正吾教授、牧野篤教授、鈴木亘准教授（学習院大学経済学部）、村田久助教  
宮内康二ジェネラルマネージャー
- ・ 大鹿隆氏（東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センター特任教授）との意見交換
- ・ 加藤まどか氏（福井県立大学学術教養センター准教授）との意見交換
- ・ 児玉昇氏（仁愛大学人間学部教授）等との意見交換
- ・ 白石浩介氏（一橋大学経済研究所世代間問題研究機構特任准教授）との意見交換
- ・ 高田洋子氏（福井大学教育地域科学部教授）との意見交換

(大学の学生等)

- ・ 仁愛大学人間学部「橋詰武宏教授ゼミ」の学生等との意見交換
- ・ 東京大学法学部「森田朗教授ゼミ」の学生等との意見交換
- ・ 県内企業の若手社員との意見交換への参加

○講座等への参加

- ・ 第109回東京大学公開講座の受講
- ・ 敦賀市政策形成能力向上プロジェクトチーム意見交換会への参加

## 「ふくい2030年の姿」検討会 名簿

2009年3月31日現在

### ○20代

永渕 智大 総合政策部政策推進課主事  
 小西 富美子 総務部福井県税事務所主事  
 山岸 千恵 総務部人事企画課主事

### ○30代

水江 友哉 総務部財産活用課主事  
 白崎 裕典 総合政策部政策推進課主事  
 蜂谷 陽子 安全環境部危機対策・防災課主事  
 菱川 京子 総務部税務課主査  
 山田 将之 嶺南振興局農村整備部企画主査  
 岸本 鉄也 総務部財務企画課企画主査  
 長谷川 慎司 総務部人事企画課企画主査  
 堂越 浩 農林水産部政策推進グループ企画主査  
 竹内 健一郎 安全環境部環境政策課企画主査  
 高木 直茂 土木部都市計画課企画主査  
 石山 一意 健康福祉部坂井健康福祉センター企画主査

### ○40代

武部 衛 教育庁教育政策課企画主査  
 高比良 規美子 農林水産部県産材活用課主任  
 白崎 俊一郎 総合政策部政策推進課主任  
 白寄 淳 農林水産部販売開拓課課長補佐

(計18名)

### — このようなメンバーで2年間検討してきました —

○男女構成 男性：13名 女性：5名  
 ○平均年齢 35.7歳  
 ○職種構成 事務職：13名 技術職：5名  
 ○既婚者数 13名（子どもの数：平均1.4人）  
 ○出身地 福井市：6名 小浜市：1名 大野市：1名  
           鯖江市：4名 あわら市：1名 越前市：2名  
           坂井市：1名 若狭町：1名 佐賀県小城市：1名

## 参考文献一覧

著者：アルファベット、五十音順

- 24365 北海道研究会、北山創造研究所『24365 北海道 北の夢』（産経新聞出版、2007年）
- アダム・スミス『国富論』（中央公論新社、1978年）
- アラン・グリーンズパン『波乱の時代 上・下』（日本経済新聞社、2007年）
- アラン・グリーンズパン『波乱の時代 特別版』（日本経済新聞社、2008年）
- アラン・ワイズマン『人類が消えた世界』（早川書房、2008年）
- アルバート＝ラズロ・バラハシ『新ネットワーク思考』（NHK出版、2002年）
- アリエル・A・オルテガ『危機の本質－ガリレイをめぐる』（創文社、1954年）
- クラウドイス・ザイドル『サザンな大人たち』（主婦の友社、2006年）
- クレイトン・クリステンセン『イノベーションのジレンマ』（翔泳社、2000年）
- デイヴィッド・チール『家族ライフスタイルの社会学』（ミネルヴァ書房、2006年）
- ドルジェ・ワンモ・ワンチュック『幸福大国ブータン－王妃が語る桃源郷の素顔』（日本放送出版協会、2007年）
- ドーン・グラフハイト氏（米国リンフィールド大学教授）基調講演資料
- J・K・ガルブレイス『新しい産業国家』（河出書房新社、1968年）
- ジャック・アタリ『21世紀の歴史』（作品社、2008年）
- G・チャイルド『文明の起源』（岩波書店、1958年）
- GRI 日本フォーラム 2020年の日本を創る会『未来をスケッチ vision 2020』（麗澤大学出版会、2006年）
- ゲッツ・W・ヴェルナー『ベーシック・インカム－基本所得のある社会へ』（現代書館、2007年）
- ハワード・ガードナー『知的な未来をつくる「五つの心」』（ランダムハウス講談社、2008年）
- アンリ・J・F・ルソー『社会契約論』（岩波書店、1954年）
- アンリ・J・F・ルソー『エミール』（岩波書店、1962年）
- IPCC 第4次評価報告書
- ジェームズ・キャントン『極端な未来 政治・社会編』（主婦の友の会、2008年）
- ジェームズ・キャントン『極端な未来 産業・経済・科学編』（主婦の友の会、2008年）
- ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』（紀伊国屋書店、1979年）
- ジョン・ロック『市民政府論』（岩波書店、1968年）
- カール・マンハイム『世代の問題』『社会学の課題』（潮出版社、1976年）
- レスター・C・サロー『ゼロ・サム社会』（TBSブリタニカ、1981年）
- マルティン・ハイデッガー『存在と時間（上）』（筑摩書房、1994年）
- メアリー・C・ブリントン『失われた場を探して－ロストジェネレーションの社会学』（NTT出版、2008年）
- ミルトン・フリードマン『資本主義と自由』（日経BPクラシックス、2008年）
- マックス・ヴェーバー『社会学の根本概念』（岩波書店、1972年）
- ビル・エモット（伏見威著訳）『アジア三国志』（日本経済新聞出版社、2008年）
- NHK 放送文化研究所世論調査部編『現代日本人の意識構造〔第2版〕』（日本放送出版協会、1985年）
- NHK 放送文化研究所世論調査部編『現代日本人の意識構造〔第3版〕』（日本放送出版協会、1991年）
- NHK 放送文化研究所世論調査部編『現代日本人の意識構造〔第4版〕』（日本放送出版協会、1998年）
- NHK 放送文化研究所世論調査部編『現代日本人の意識構造〔第5版〕』（日本放送出版協会、2000年）
- NHK 放送文化研究所世論調査部編『現代日本人の意識構造〔第6版〕』（日本放送出版協会、2004年）
- NHK 放送文化研究所編『日本人の生活時間・2005－NHK 国民生活時間調査』（日本放送出版協会、2006年）
- NHK 放送文化研究所世論調査部『日本人の好きなもの－データで読む嗜好と価値観』（日本放送出版協会、2008年）
- NHK 放送文化研究所編『現代社会とメディア・家族・世代』（日本放送出版協会、2008年）
- OECD 編著『図表でみる教育 OECD インディケータ（2008年版）』（明石書店、2008年）
- OECD 編著『地図でみる 世界の地域格差』（明石書店、2008年）
- OECD 教育研究革新センター編著『教育のシナリオ 未来思考による新たな学校像』（明石書店、2006年）
- プラトン『国家』（岩波書店、2002年）
- プラトン『ソクラテスの弁明』（岩波書店、1964年）
- PHP 研究所編『教育再生への挑戦－市民の共汗で進める京都市の軌跡』（PHP 研究所、2007年）
- ウォルター・リップマン『世論』（岩波書店、1987年）
- ロン・パーニック、クリント・ワイルダー『クリーンテック革命－第三の巨大ビジネスチャンス』（ファーストプレス、2008年）
- R.デカルト『哲学の原理』（角川書店、1969年）
- R.デカルト『方法序説』（岩波書店、1997年）
- ロバート・D・パットナム 柴内康文訳『孤独なボウリング－米国コミュニティの崩壊と再生』（柏書房、2006年）

- ロバート・C・アッチェリー、アマンダ・S・バルシュ著『ジェロントロジー加齢の価値と社会の力』（きんざい、2005年）
- サラ・ジェームズ&トルビュン・ラーティ『スウェーデンの持続可能なまちづくりーナチュラール・ステップが導くコミュニティ改革』（新評論、2006年）
- ソースティン・ウェブレ『企業の理論』（勁草書房、1965年）
- シュムペーター『経済発展の理論（上）』（岩波書店、1978年）
- UFJ総合研究所『2006年日本はこうなる』（講談社、2005年）
- 青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）
- 青木仁『日本型魅惑都市をつくる』（日本経済新聞社、2004年）
- 青山浩子『「農」が変える食ビジネスー生販協業という新たな取り組み』（日本経済新聞出版社、2004年）
- 秋山弘子『長寿の時代、あらゆる方面で有益な「ジェロントロジー」』『高齢社会ジャーナル』インタビュー記事（CMPジャパン、2008年）
- 朝日新聞社『都道府県ランキング くらしデータブック』（朝日新聞社、2001年）
- 朝日新聞「ロストジェネレーション」取材班『ロストジェネレーションーさまよう2000万人』（朝日新聞社、2007年）
- 東浩紀、北田暁大編『思想地図 vol. 2』（日本放送出版協会、2008年）
- 厚美尚武『「食」の大戦争ー売れる仕組みはこう創る』（東洋経済新報社、2005年）
- 雨宮処凛『プレカリアートーデジタル日雇い世代の不安な生き方』（洋泉社、2007年）
- 荒井一博『学歴社会の法則 教育を経済学から見直す』（光文社、2007年）
- 飯尾潤『政局から政策へー日本政治の成熟と転換』（NTT出版、2008年）
- 五百旗頭真『歴史としての現代日本』（千倉書房、2008年）
- 石川九楊『逆耳の言 日本とはどういう国か』（半球コミュニケーションズ、1998年）
- 石川義孝『人口減少と地域ー地理学のアプローチ』（京都大学学術出版会、2007年）
- 五十嵐敬喜『美しい都市と祈り』（学芸出版社、2006年）
- 池上彰『ニッポン、ほんとに格差社会？』（小学館、2006年）
- 伊東俊太郎『講座・比較文化<第7巻> 日本人の価値観』（研究社、1976年）
- 伊藤元重『リーディングス 格差を考える』（日本経済新聞出版社、2008年）
- 稲場圭信『思いやり格差が日本をダメにするー支え合う社会をつくる8つのアプローチ』（日本放送出版協会、2008年）
- 稲葉振一郎『「公共性」論』（NTT出版、2008年）
- 今枝由郎『ブータンに魅せられて』（岩波書店、2008年）
- 今村仁司 他編『岩波社会思想事典』（岩波書店、2008年）
- 今村奈良臣『国際化時代の日本農業ー車座になって経済革新を考える』（農山漁村文化協会、1988年）
- 岩崎信彦他『地域社会学講座』（東信堂、2006年）
- 岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』（筑摩書房、2006年）
- 岩本康志編『社会福祉と家族の経済学』（東洋経済新報社、2001年）
- 上山信一、桧森隆一『行政の解体と再生』（東洋経済新報社、2008年）
- 内田樹『こんな日本でよかったねー構造主義的日本論』（バジリコ、2008年）
- 宇宙航空研究開発機構（JAXA）研究レポート
- 宇野重規『政治哲学へ 現代フランスとの対話』（東京大学出版会、2004年）
- 宇野重規『トクヴィル 平等と不平等の理論家』（講談社選書チメエ、2007年）
- 江口克彦『2025年伊野辺家の1日ーイノベーションで日本はこう変わる！』（PHP研究所、2007年）
- 大江正章『地域の力 食・農・まちづくり』（岩波書店、2008年）
- 大石久和『国文学事始め』（毎日新聞社、2006年）
- 大泉啓一郎『老いてゆくアジアー繁栄の構図が変わるとき』（中央公論新社、2007年）
- 大澤勝次、今井裕『食の未来を考える』（岩波書店、2003年）
- 大澤真幸『不可能性の時代』（岩波書店、2008年）
- 大沢真知子『新しい家族のための経済学ー変わりゆく企業社会の中の女性』（中央公論社、1998年）
- 大沢真知子『ワークライフシナジーー生活と仕事の“相互作用”が変える企業社会』（岩波書店、2008年）
- 大沢真知子『ワークライフバランス社会へー個人が主役の働き方』（岩波書店、2006年）
- 大沢真知子、原田順子『21世紀の女性と仕事』（放送大学教育振興会、2006年）
- 大沢真理『現代日本の生活保障システム』（岩波書店、2007年）
- 大竹文雄『格差と希望』（筑摩書房、2008年）
- 大塚久雄『社会科学における人間』（岩波書店、2006年）
- 大日向雅美『母性愛神話とのたたかい』（草土文化、2002年）
- 岡田知弘他『国際化時代の地域経済学』（有斐閣、2007年）
- 岡庭昇編『食べる米がなくなる！？ー農業現場から緊急告発』（エース企画出版、1983年）
- 岡本薫『日本を減らす教育論議』（講談社、2006年）
- 岡本祐三『高齢者医療と福祉』（岩波書店、2000年）
- 奥野翔『森の都市』（彰国社、2007年）
- 小倉康嗣『高齢化社会と日本人の生き方ー岐路に立つ現代中年のライフストーリー』（慶應義塾大学出版会、2006年）
- 小滝敏之『市民社会と近隣自治ー小さな自治から大きな未来へ』（公人社、2007年）

- 落谷恵美子『近代家族の曲がり角』（角川書店、2000年）
- 落谷恵美子『21世紀家族へー家族の戦後大勢の見かた・超えかた』（有斐閣、1994年）
- 恩賜財団母子愛育会編『日本子ども資料年鑑2009』（KTC中央出版、2009年）
- 春日井道彦『ドイツのまちづくり』（学芸出版社、2004年）
- 片木淳・藤井浩司編『地域づくり新戦略ー自治体格差時代を生き抜く』（一藝社、2008年）
- 加藤久和『人口経済学』（日本経済新聞出版社、2007年）
- 門脇厚司『子どもの社会力』（岩波書店、1999年）
- 金子郁容『学校評価ー情報共有のデザインとツール』（筑摩書房、2005年）
- 金子郁容『日本で「一番いい」学校ー地域連携のイノベーション』（岩波書店、2008年）
- 鎌田実「高齢社会のモビリティ構築に向けて」ジェロントロジーセミナー資料（2007年）
- 神谷浩夫他 OECD『地図でみる世界の地域格差ー都市集中と地域発展の国際比較』（明石書店、2008年）
- 神永正博『学力低下は錯覚である』（森北出版、2008年）
- 刈谷剛彦『大衆教育社会のゆくえー学歴主義と平等神話の戦後史』（中央公論社、1995年）
- 刈谷剛彦『階層化日本と教育危機ー不平等再生産から意欲格差社会へ』（有信堂高文社、2001年）
- 刈谷剛彦・増田ユリヤ『欲ばり過ぎる ニッポンの教育』（講談社、2006年）
- 河合隼雄『大人になることのむずかしさ』（岩波書店、1983年）
- 河合隼雄『これからの日本』（潮出版社、2000年）
- 河合隼雄『青春の夢と遊び』（岩波書店、1994年）
- 川勝平太『文化力 日本の底力』（ウェッジ、2006年）
- 川勝平太・鶴見和子『「内発的発展」とは何かー新しい学問に向けて』（藤原書店、2008年）
- 河野綱果『人口学への招待』（中央公論新社、2007年）
- 川又三智彦『2020年の日本からの警告』（光文社、2007年）
- 関西大学経済・政治研究所『調査と資料<第20号> 日本人の価値観の構造と変容』（同朋社、1976年）
- 神庭重信『こころと体の対話ー精神免疫学の世界』（文芸春秋、1999年）
- 菊池恭二『宮大工の人育てー木も人も「癖」があるから面白い』（祥伝社、2008年）
- 気象庁「気候変動監視レポート2007」
- 橘川武郎『資源小国のエネルギー産業』（芙蓉書房出版、2009年）
- 工藤庸子・岩永雅也『大人のための「学問のススメ」』（講談社、2007年）
- 経済産業省「ソーシャルビジネス研究会報告書」
- 経済産業省資源エネルギー庁「長期エネルギー需給見通し」
- 経済産業省資源エネルギー庁「ナノテク関連市場規模動向調査」
- 警察庁「犯罪統計書」
- 玄田有史『希望学』（中央公論新社、2006年）
- 玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安ー揺れる若者の現在』（中公文庫、2005年）
- 玄田有史『14歳からの仕事道』（理論社、2005年）
- 玄田有史『ジョブ・クリエーション』（日本経済新聞社、2004年）
- 玄田有史『働く過剰』（NTT出版株式会社、2005年）
- 玄田有史、小杉礼子、労働政策研究研修機構『子どもがニートになったら』（生活人新書、2005年）
- 玄田有史、斎藤珠理『仕事とセックスのあいだ』（朝日新書、2007年）
- 玄田有史、曲沼美穂『ニートフリーターでもなく失業者でもなく』（幻冬舎文庫、2006年）
- 厚生労働省「水道統計 施設・業務編」
- 厚生労働省「都道府県別生命表」
- 厚生労働省「人口動態統計」
- 厚生労働省「全国簡易水道統計」
- 厚生労働省「平成12年保健福祉動向調査」
- 厚生労働省「平成18年国民健康・栄養調査」
- 厚生労働省「福祉行政報告例」
- 厚生労働省「毎月勤労統計調査」
- 厚東洋輔『モダンシティの社会学ーポストモダンからグローバリゼーションへ』（ミネルヴァ書房、2006年）
- 高齢者介護研究会「2015年の高齢者介護」（厚生労働省、2003年）
- 国際連合「生活用水需要量将来見通し」
- 国土交通省道路局「道路統計年報」
- 国立社会保障・人口問題研究所「超少子化と家族・社会の変容ーヨーロッパの経験と日本の政策課題」『人口問題研究64-2』（2008年）
- 国立社会保障・人口問題研究所『日本の人口減少社会を読み解くー最新データからみる少子高齢化』（中央法規出版、2008年）
- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」
- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口ー（平成19年5月推計）」（2007年）
- 児島和人『現代社会とメディア・家族・世代』（新曜社、2008年）

- 小島慶三『文明としての農業—生命産業コンプレックスの提唱』（ダイヤモンド社、1990年）
- 後藤和子『文化政策学—法・経済・マネジメント』（有斐閣、2001年）
- 後藤和子『文化と都市の公共政策創造的産業と新しい都市政策の構想』（有斐閣、2005年）
- 小林雅之『進学格差—深刻化する教育費負担』（筑摩書房、2008年）
- 小原雅博『東アジア共同体—強化する中国と日本の戦略』（日本経済新聞社、2005年）
- 小峰隆夫・日本経済研究センター編『超長期予測 老いるアジア—変貌する世界人口・経済地図』（日本経済新聞出版社、2007年）
- 小宮山宏『「課題先進国」日本』（中央公論新社、2007年）
- 小森田秋夫『市場経済化の法社会学』（有信堂高文社、2001年）
- 財団法人生命保険文化センター『日本人の生活価値観 1991 報告書』（財団法人生命保険文化センター、1992年）
- 財団法人生命保険文化センター『日本人の生活価値観 1996 報告書』（財団法人生命保険文化センター、1997年）
- 財団法人生命保険文化センター、野村総合研究所『日本人の生活価値観調査報告書』（東洋経済新報社、1991年）
- 財団法人矢野恒太記念会編『数字で見る 日本の100年』（財団法人矢野恒太記念会、2006年）
- 財団法人矢野恒太記念会編『世界国政図会』（財団法人矢野恒太記念会、2007年）
- 財団法人矢野恒太記念会編『日本国政図会』（財団法人矢野恒太記念会、2008年）
- 財団法人自動車検査登録情報協会
- 齋藤孝『教育力』（岩波書店、2007年）
- 齋藤孝・梅田望夫『私塾のすすめ—ここから創造が生まれる』（筑摩書房、2008年）
- 齋藤環『社会的ひきこもり—終わらない思春期』（PHP 研究所、1998年）
- 堺屋太一『これからの十年日本大好機』（日本経済新聞出版社、2007年）
- 堺屋太一『大激震』（実業之日本社、2008年）
- 堺屋太一『団塊の世代』（文藝春秋、2005年）
- 堺屋太一『知価革命』（PHP 研究所、1990年）
- 堺屋太一編『人生の「秋」の生き方—「後半の幸せ」とは何か』（PHP 研究所、2008年）
- 榎原英資『没落からの逆転—グローバル時代の差別化戦略』（中央公論新社、2008年）
- 佐藤卓己『テレビの教養—億総博知化への系譜』（NTT 出版、2008年）
- 佐藤学『学校の挑戦—学びの共同体を創る』（小学館、2006年）
- 佐藤学『「学び」から逃走する子どもたち』（岩波書店、2000年）
- 佐藤友美子編著『成熟し、人はますます若くなる』（NTT 出版、2008年）
- 佐々木信夫『自治体をどう変えるか』（筑摩書房、2006年）
- 佐々木陽一編『元気なまちのスゴイしかけ—地域経済を活性化する全国24の事例に学ぶ』（PHP 研究所、2006年）
- 佐貫浩・世取山洋介編『新自由主義教育改革 その理論・実態と対抗軸』（大月書店、2008年）
- 実川真由・実川元子『受けてみたフィンランドの教育』（文藝春秋、2007年）
- 鮫島敬治・日本経済研究センター『2020年の中国—政治・外交・経済・産業の将来を読む』（日本経済新聞社、2000年）
- 佐和隆光『この国の未来—持続可能で「豊か」な社会』（筑摩書房、2007年）
- 佐和隆光『市場主義の終焉』（岩波書店、2000年）
- 産経新聞社未来史閲覧取材班『未来史閲覧』（産経新聞ニュースサービス、1996年）
- 産経新聞社未来史閲覧取材班『未来史閲覧<2>』（産経新聞ニュースサービス、1997年）
- 塩川正十郎『2020年日本のあり方—21世紀世代への7つの提言』（東洋経済新報社、2008年）
- 静岡県『日本改革 静岡県からの提案』（静岡新聞社、2006年）
- 篠原一『市民の政治学—討議デモクラシーとは何か』（岩波書店、2004年）
- 柴田明夫『食糧争奪』（日本経済新聞出版社、2007年）
- 柴田明夫『水戦争—水資源争奪の最終戦争が始まった』（角川 SS コミュニケーションズ、2007年）
- 社団法人自動車技術会『2030年自動車はこうなる』（社団法人自動車技術会、2007年）
- ジャパン・リーダーズ・カレッジ『普通の国民が考えたニッポン』（小学館スクウェア、2006年）
- 白石賢・白石小百合『幸福度研究の現状と課題—少子化との関連において』（内閣府経済社会総合研究所、2006年）
- 白波瀬佐和子『少子高齢社会のみえない格差—ジェンダー・世代・階層のゆくえ』（東京大学出版会、2005年）
- 関満博『地方圏の産業振興と中山間地域』（新評論、2007年）
- 陣内雄次ほか『コミュニティ・カフェと市民育ち—あなたにもできる地域の縁側づくり』（萌文社、2007年）
- 神野直彦『人間回復の経済学』（岩波書店、2002年）
- 鈴木謙介『サブカル・ニッポンの新自由主義—既得権批判が若者を追い込む』（筑摩書房、2008年）
- 鈴木宣弘『FTA と日本の食料農業』（筑摩書房、2004年）
- 成美堂出版編集部『今がわかる時代がわかる日本地図 2007年版』（成美堂出版、2006年）
- 成美堂出版編集部『今がわかる時代がわかる日本地図 2008年版』（成美堂出版、2007年）
- 成美堂出版編集部『今がわかる時代がわかる世界地図 2009年版』（成美堂出版、2008年）
- 瀬地山角『東アジアの家父長制—ジェンダーの比較社会学』（勁草書房、1996年）
- 世界経済フォーラム『Global Risks 2008』（世界経済フォーラム、2008年）
- 全国簡易水道協議会『全国簡易水道統計』（全国簡易水道協議会）

- 総合資源エネルギー調査会「長期エネルギー需給見通し」（総合資源エネルギー調査会、2008年）
- 総務省「国勢調査」
- 総務省「社会生活基本調査」
- 総務省「就業構造基本調査」
- 総務省「消費者物価指数」
- 袖川芳之・田邊健「幸福度に関する研究～経済的ゆたかさは幸福と関係があるか～」(内閣府経済社会総合研究所、2007年)
- 園田恭一、西村昌樹『ソーシャル・インクルージョンの社会福祉―新しい“つながり”を求めて』(ミネルヴァ書房、2008年)
- 菌部澄『よみがえる昭和の記憶1 東海北陸の記録』(アーカイブス出版、2007年)
- 第2期愛知県科学技術基本計画策定委員会「第2期愛知県科学技術基本計画」(愛知県、2006年)
- 高橋敏『江戸の教育力』(筑摩書房、2007年)
- 瀧井宏臣『「教育七五三」の現場から』(祥伝社、2008年)
- 竹内薫『一年は、なぜ年々速くなるのか』(青春出版社、2008年)
- 竹内宏『エコノミストたちの栄光と挫折』(東洋経済新報社、2008年)
- 武川正吾『地域福祉の主流化 福祉国家と市民社会Ⅲ』(法律文化社、2006年)
- 武川正吾『連帯と承認―グローバル化と個人化のなかの福祉国家』(東京大学出版会、2007年)
- 武田晴人『高度成長』(岩波書店、2008年)
- 田坂広志『これからは何が起きるのか』(PHP研究所、2006年)
- 田坂広志『未来を予見する「5つの法則」―弁証法的思考で読む次なる「変化」』(光文社、2008年)
- 高木勝『図解「人口減少」日本 経済・金融・社会はこうなる!』(実業之日本社、2006年)
- 高橋徹『日本人の価値観・世界ランキング』(中央公論新社、2003年)
- 高橋信正『田舎のちから』(昭和堂、2007年)
- 高橋乗宣『世界が日本を必要としている―原油高・為替に一喜一憂せずに大局をつかめ』(ビジネス社、2006年)
- 柘植智幸『「ゆとり教育世代」の恐怖』(PHPペーパーバックス、2008年)
- 谷岡一郎編『日本人の意識と行動―日本版総合的社会調査JGSSによる分析』(東京大学出版会、2008年)
- 谷口正和『2010年革命―団塊の世代が会社から消える日』(講談社、2004年)
- 田村明『まちづくりと景観』(岩波書店、2005年)
- 田村秀『自治体格差が国を滅ぼす』(集英社、2007年)
- 太郎丸博『フリーターとニートの社会学』(世界思想社、2006年)
- 地域コミュニティづくり研究会『自立型地域コミュニティへの道―人口減少に負けない豊かで元気な地域をつくる』(ぎょうせい、2004年)
- 電通総研、日本リサーチセンター『世界主要国価値観データブック』(同友館、2008年)
- 電通総研、余暇開発センター編『世界23カ国 価値観データブック』(同友館、1999年)
- 東京大学社会科学研究所シリーズNO. 27 社会科学と人類学の希望についての対話から 希望学ワークショップの記録(2008年)
- 東京大学社会科学研究所シリーズNO. 30 希望学国際コンファレンス「希望と社会の新たな地平へ」全記録(2008年)
- 東京大学社会科学研究所シリーズNO. 31 地方政治家の肖像―2006年岩手県釜石市議会議員インタビュー記録(2008年)
- 東京大学社会科学研究所シリーズNO. 34 希望をめぐる対話―かたりべ、支え手、興し手、伝え手たち(2009年)
- 東京学生教育フォーラム『学生による教育再生会議』(平凡社、2007年)
- 堂目卓生『アダム・スミス』(中央公論新社、2008年)
- 富樫幸一他『人口減少時代の地方都市再生』(古今書院、2007年)
- 徳野貞雄『農村の幸せ(ムラ)、都会(マチ)の幸せ―家族・食・暮らし』(日本放送出版協会、2007年)
- 独立行政法人科学技術振興機構JSTバーチャル科学館「未来技術年表」<http://jvsc.jst.go.jp/shiryo/yosoku/> (独立行政法人科学技術振興機構)
- 独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の自然体験活動等に関する実態調査報告書」(2006年)
- 都市再生研究所「2050年のニッポン・ハッピー化計画―フランスに学ぶ少子化対策」(都市再生研究所、2007年)
- 戸田忠雄『学校は誰のものか 学習者主権をめざして』(講談社、2007年)
- 鳥羽賢『日本人の平均値』(生活情報センター、2005年)
- 内閣府「イノベーション25」(2007年)
- 内閣府「国民生活白書(平成19年度版)」(2007年)
- 内閣府「国民生活選好度調査」(1985年、1994年、2007年)
- 内閣府編「日本21世紀ビジョン」(国立印刷局、2005年)
- 中井浩一『大学入試の戦後史 受験地獄から全入時代へ』(中央公論新社、2007年)
- 中江克己『江戸の躰と子育て』(祥伝社、2007年)
- 中島恵理『英国の持続可能な地域づくり―パートナーシップとローカリゼーション』(学芸出版社、2005年)
- 中谷巖『資本主義はなぜ自壊したのか―「日本」再生への提言』(集英社、2008年)
- 中田実『地域分権時代の町内会・自治会』(自治体研究会、2007年)
- 中西準子『水の環境戦略』(岩波書店、1994年)
- 中西輝政『覇権の終焉―アメリカ衰退後の世界情勢を読み解く』(PHP研究所、2008年)
- 仲正昌樹『集中講義! 日本の現代思想―ポストモダンとは何だったのか』(日本放送出版協会、2006年)
- 中俣均編『国土空間と地域社会(シリーズ人文地理学9)』(朝倉書店、2004年)

- 中村民雄他『東アジア共同体憲草案－実現可能な未来をひらく議論のために』（昭和堂、2008年）
- 中村尚史「地方の希望：希望学・釜石調査の概要」『社会科学研究』59（東京大学社会科学研究所、2002年）
- 中村靖彦「ウォータービジネス」（岩波書店、2004年）
- 二宮皓編著『世界の学校－教育制度から日常の学校風景まで』（学事出版、2006年）
- 日本デザイン機構『クルマ社会のリ・デザイン－近未来モビリティへの提案』（鹿島出版会、2004年）
- 日本学術会議イノベーション推進検討委員会報告「科学者コミュニティーが描く未来の社会」（2007年）
- 日本経済新聞社編『されど成長』（日本経済新聞出版社、2008年）
- 日本経済新聞社『少子に挑む－「脱・人口減少」への最後の選択』（日本経済新聞出版社、2005年）
- 日本経済新聞社『人口減少 新しい日本をつくる』（日本経済新聞社、2006年）
- 日本経済新聞社編『2020年からの警鐘－日本が消える』（日本経済新聞出版社、1997年）
- 日本経済新聞社編『2020年からの警鐘＜2＞－怠慢な日本人』（日本経済新聞出版社、1997年）
- 日本経済新聞社編『2020年からの警鐘＜3＞完結篇－「終わり」からの出発』（日本経済新聞出版社、1998年）
- 日本経済新聞社『日経大予測〔2006年版〕』（日本経済新聞出版社、2005年）
- 日本経済新聞社『日経大予測〔2009年版〕』（日本経済新聞出版社、2008年）
- 日本総合研究所、楽天リサーチ「二地域居住実践者の実態アンケート」（日本総合研究所、楽天リサーチ、2006年）
- 日本地域開発センター編『日本人の価値観』（至誠堂、1970年）
- 『日本の論点』編集部編『10年後の日本』（文藝春秋、2006年）
- 『日本の論点』編集部編『10年後のあなた』（文藝春秋、2007年）
- 日本の未来研究会『大予測日本の3年後、5年後、10年後』（講談社、2006年）
- 日本貿易会「2015年アジア」特別研究会『2015年アジアの未来』（東洋経済新報社、2006年）
- ニュース・リテラシー研究所『図解まるわかり時事用語』（新星出版社、2007年）
- 根井雅弘『わかる現代経済学』（朝日新聞出版、2007年）
- 根本浩『ゆとり教育は本当に死んだのか？』（角川SSコミュニケーションズ、2007年）
- 農林水産省『「遺伝子組換え農産物」ステップアップ編』（農林水産省、2008年）
- 農林水産省「遺伝子組換え農産物をめぐる状況について」（農林水産省）
- 農林水産省「海外食料需給レポート2007」（農林水産省、2008年）
- 農林水産省「食糧需給」
- 農林中金総合研究所『食料を持たない日本経済－農業・農村の再生を考える』（東洋経済新報社、1993年）
- 野上暁『子ども学 その源流へ』（大月書店、2008年）
- 野口定久『地域福祉論』（ミネルヴァ書房、2008年）
- 野々山久也『現代家族のパラダイム革新－直系制家族・夫婦制家族から合意制家族へ』（東京大学出版会、2007年）
- 野村総合研究所 社会産業研究本部『変わりゆく日本人－生活者一人にみる日本人の意識と行動』（野村総合研究所、1998年）
- 野村総合研究所 2015年プロジェクトチーム『2015年の日本－新たな「開国」の時代へ』（東洋経済新報社、2008年）
- 野村総合研究所、山田澤明他『2010年の日本－雇用社会から起業社会へ』（東洋経済新報社、2007年）
- 野村総合研究所ほか『続・変わりゆく日本人－生活者一人にみる日本人の価値観・消費行動』（野村総合研究所広報部、2001年）
- 芳賀経『威風堂々の指導者たち』（清流出版、2008年）
- 博報堂生活総合研究所『生活定点分析レポート（生活潮流1992－2008）』（博報堂生活総合研究所、2008年）
- 博報堂生活総合研究所『末子度－末子年齢で切る5層の女性たち』（博報堂、2002年）
- 橋本治『日本の行く道』（集英社、2007年）
- 橋本枳摩『ポケット解説 人口減少と格差社会－経済と社会の未来図を描く』（秀和システム、2006年）
- 早川勇『英語になった日本語』（春風社、2006年）
- 林信吾『イギリス型〈豊かさ〉の真実』（講談社、2009年）
- 葉養正明『よみがえれ公立学校－地域の核としての新しい学校作り』（紫峰図書、2006年）
- 葉養正明編『学校と地域のきずな－シリーズ子どもと教育の社会学〈4〉』（教育出版、2000年）
- 疋田正博編『食を育む水－食の文化フォーラム〈25〉』（ドメス出版、2007年）
- 樋口美雄編著『日本型ワークシェアリングの実践』（生産性出版、2002年）
- 平尾俊郎『二十年後－くらしの未来図』（新潮社、2004年）
- 平山修一『美しい国ブータン』（リヨン社、2007年）
- 広井良典『遺伝子の技術、遺伝子の思想－医療の変容と高齢化社会』（中央公論社、1996年）
- 広井良典『医療保険改革の構想』（日本経済新聞社、1997年）
- 広井良典『ケア学－越境するケアへ』（医学書院、2000年）
- 広井良典『ケアを問い直す－〈深層の時間〉と高齢化社会』（筑摩書房、1997年）
- 広井良典『死生観を問いなおす』（筑摩書房、2001年）
- 広井良典『持続可能な福祉社会－「もう一つの日本」の構想』（筑摩書房、2006年）
- 広井良典『生命の政治学－福祉国家・エコロジー・生命倫理』（岩波書店、2003年）
- 広井良典『脱「ア」入欧－アメリカは本当に「自由」の国か』（NTT出版、2004年）
- 広井良典『定常型社会－新しい「豊かさ」の構想』（岩波書店、2001年）

- 広井良典『日本の社会保障』（岩波書店、1999年）  
 広井良典・駒村康平『アジアの社会保障』（東京大学出版会、2003年）  
 広田照幸『教育には何ができないか』（春秋社、2003年）  
 広田照幸『教育不信と教育依存の時代』（紀伊国屋書店、2005年）  
 広田照幸『思考のフロンティア 教育』（岩波書店、2004年）  
 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか 「教育する家族」のゆくえ』（講談社、1999年）  
 廣渡清吾『希望：変わることに、変えること—希望についてのいくつかのテーゼ』（2007年）  
 廣渡清吾『市民社会と法』（放送大学教育振興会、2008年）  
 廣渡清吾『法システムⅡ 比較法社会論—日本とドイツを中心に—』（放送大学教育振興会、2007年）  
 フォーラム21・明日の健やかな日本を考える会『背景 総理大臣殿 これが日本を元気にする処方箋です』（東洋経済新報社、2008年）  
 福井県「県政マーケティング調査」  
 福井県「福井県農林水産統計年報」  
 福井県「福井県統計年鑑」  
 福井県「福井県林業統計書」  
 福井県「平成16年観光客動向調査結果」  
 福井県健康増進課「平成18年度県民健康・栄養調査」  
 福井県広報課「グラフクイ」  
 福井県新幹線建設推進課資料  
 福井県スポーツ保健課「H19 食育アンケート 児童・生徒編」  
 福井県政策統計課「福井県学校保健統計調査」  
 福井県総務部政策統計室「人口減少社会における「団塊の世代」の活用について」（福井県、2005年）  
 福井県都市計画課「平成17年福井と試験パーソントリップ調査」  
 福井県農林水産部「農林漁業の動き」  
 福井市「自治会に関するアンケート」  
 福田成美『デンマークの環境に優しい街づくり』（新評論、1999年）  
 福地誠『教育格差が日本を没落させる』（洋泉社、2008年）  
 福地誠『教育格差絶望社会』（洋泉社、2006年）  
 藤田英典『義務教育を問いなおす』（筑摩書店、2005年）  
 藤田英典編『誰のための「教育再生」か』（岩波書店、2007年）  
 藤原和博『公立校の逆襲 いい学校をつくる』（朝日新聞社、2004年）  
 古田隆彦『日本人はどこまで減るか—人口減少社会のパラダイム・シフト』（幻冬舎、2008年）  
 古田隆彦『「増子・中年化」社会のマーケティング—人口減少をチャンスに変える40の戦略』（生産性出版、2008年）  
 文藝春秋『日本の論点2009』（文藝春秋、2008年）  
 文春新書編集部編『論争 若者論』（文芸春秋、2008年）  
 ベネッセ教育研究開発センター「第3回子育て生活基本調査」（ベネッセ教育研究開発センター、2008年）  
 本間義人『地域再生の条件』（岩波書店、2007年）  
 堀田力『「人間力」の育て方』（集英社、2007年）  
 堀内都喜子『フィンランド豊かさのメソッド』（集英社、2008年）  
 本田和子『子どもが忌避される時代—なぜ子どもは生まれにくくなったのか』（新曜社、2007年）  
 舞田敏彦『47都道府県の子どもたち あなたの県の子どもを診断する』（武蔵野大学出版会、2008年）  
 真木悠介『現代社会の存立構造』（筑摩書房、1977年）  
 真木悠介『自我の起源』（岩波書店、1993年）  
 牧野篤『<わたし>の再構築と社会・生涯教育—グローバル化・少子高齢社会・そして大学』（大学教育出版、2005年）  
 増田直紀『私たちはどうつながっているのか ネットワークの科学を応用する』（中央公論新社、2007年）  
 増田ユリヤ「学力世界—フィンランド流「教師の育て方」」『世界』779号（岩波書店、2008年）  
 松浦良高『新・中国若者マーケット ターゲットは80后』（弘文堂、2008年）  
 松尾尊兌編『石橋湛山評論集』（岩波書店、1984年）  
 松岡正剛『白川静—漢字の世界観』（平凡社、2008年）  
 松田雅央『環境先進国ドイツの今—緑とトラムの街カールスルーエから』（学芸出版社、2004年）  
 松田雅央『ドイツ 人が主役のまちづくり—ボランティア大国を支える市民活動』（学芸出版社、2007年）  
 松谷明彦『2020年の日本人—人口減少時代をどう生きる』（日本経済新聞出版社、2005年）  
 松永安光他『地域づくりの新潮流—スローシティ アグリツーリズム ネットワーク』（彰国社、2007年）  
 三浦展『格差が遺伝する！—子どもの下流化を防ぐには』（宝島社、2007年）  
 三浦展『「かまやつ女」の時代—女性格差社会の到来』（牧野出版、2005年）  
 三浦朱門『常識として知っておきたい「世界の中の日本」』（海竜社、2007年）  
 三神万里子『パラサイト・ミドルの衝撃—サラリーマン45歳の憂鬱』（NTT出版、2005年）  
 水島信『ドイツ流まちづくり読本—ドイツの都市計画から日本の街づくりへ』（鹿島出版会、2006年）

- 見田宗介「近代の矛盾の「解凍」—脱高度成長期の精神変容—」『思想』（岩波書店、2007年）
- 見田宗介『現代社会の理論—情報化・消費化社会の現在と未来』（岩波書店、1996年）
- 見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』（岩波書店、2006年）
- 見田宗介編著『社会構想の社会学』（岩波書店、1996年）
- 三井森雁『世界が見る日本の魅力と通知表』（幻冬舎ルネッサンス、2008年）
- 三菱総合研究所産業・市場戦略研究本部編『全予測 2030年のニッポン—世界、技術、経済はこう変わる』（日本経済新聞出版社、2007年）
- 三菱総合研究所「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価に関する調査研究報告書」（三菱総合研究所、2001年）
- 三菱総合研究所編著『徹底予測 これが新成長ビジネスだ！』（日本経済新聞出版社、2007年）
- 三菱総合研究所地域経営研究センター編著『都市・地域の新潮流』（相模書房、2006年）
- 宮川公男編『シナリオ 2019—日本と世界の近未来を読む』（東洋経済新報社、2007年）
- 三好春樹『元気が出る介護術』（岩波書店、2002年）
- 宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり—歴史的景観の再生と商業政策』（学芸出版社、2000年）
- 村上陽一郎『科学・技術の二〇〇年をたどりなおす』（N T T出版、2008年）
- 村上敦『フライブルクのまちづくり—ソーシャル・エコロジー住宅地ヴォーバン』（学芸出版社、2007年）
- 村上明、森光康次郎 編『食と健康—情報のウラを読む』（丸善出版、2002年）
- 村上龍『希望の国のエクソダス』（文藝春秋、2002年）
- 藻谷浩介『実測！ニッポンの地域力』（日本経済新聞出版社、2007年）
- 望月真一『路面電車が街をつくる—21世紀フランスの都市づくり』（鹿島出版会、2001年）
- 森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣、2008年）
- 文部科学省「OECD生徒の学習到達度調査—2006年調査国際結果の要約—」（文部科学省）
- 文部科学省「学校基本調査」
- 文部科学省「平成19年度版科学技術白書」（文部科学省、2007年）
- 安富歩『生きるための経済学』（日本放送出版協会、2008年）
- 山下一仁『農協の大罪「農政トライアングル」が招く日本の食糧不安』（宝島社、2009年）
- 山口定・神野直彦『2025年日本の構想』（岩波書店、2000年）
- 山崎正和『文明としての教育』（新潮社、2007年）
- 山重慎二他編著『日本の交通ネットワーク』（中央経済社、2007年）
- 山田昌弘『希望格差社会「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』（筑摩書房、2004年）
- 山田昌弘『近代家族のゆくえ—家族と愛情のパラドックス』（新曜社、1994年）
- 山田昌弘『少子社会日本』（岩波書店、2007年）
- 山田昌弘『パラサイトシングル時代』（筑摩書房、1999年）
- 山田昌弘『迷走する家族—戦後家族モデルの形成と解体』（有斐閣、2005年）
- 山井和則『体験ルポ 日本の高齢者福祉』（岩波書店、2000年）
- 湯浅誠『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』（岩波書店、2008年）
- 湯川英明「バイオ燃料を取り巻く世界の状況と財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）の研究開発」（財団法人地球環境産業技術研究機構微生物グループ、2007年）
- 湯沢雅彦、宮本みち子『新盤データで読む家族問題』（日本放送出版協会、2008年）
- 養老孟司『こまった人』（中央公論新社、2005年）
- 養老孟司『まともな人』（中央公論新社、2008年）
- 吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波書店、2009年）
- リサーチ・アンド・ディベロップメント『こんなに変わった！日本人の欲求—バブル前夜から20年』（毎日新聞社、2003年）
- 渡辺利夫編、日本総合研究所調査部環太平洋戦略研究センター著『日本の東アジア戦略—共同体への期待と不安』（東洋経済新報社、2005年）
- 和田秀樹『少子化対策が日本をダメにする』（グラフ社、2007年）
- 和田秀樹『パラサイトダブルならうまくいく！』（PHP 研究所、2004年）
- 和田秀樹『まじめの崩壊』（筑摩書店、2009年）
- 渡部真『現代青少年の社会学—対話形式で考える37章』（世界思想社、2006年）
- 洋泉社MOOK『地方を殺すな！—ファスト風土化から“まち”を守れ』（洋泉社、2007年）